

編集スタッフ  
第4部会長：柴田保子  
千田俊治  
筒井弘次  
田原妙子  
森 一芽  
奥田忠彦

# 葉知利書

Hashirigaki  
No.63 2005.1.1

OIS  
大阪府インテリア設計士協会  
〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14  
TEL 06-6262-1488 FAX 06-6262-1553  
URL <http://www.jp-interior.or.jp/>  
E-Mail [sss@jp-interior.or.jp](mailto:sss@jp-interior.or.jp)

## 瑞気集門

「めでたい気が、家の門に集まってくる」、つまり運氣がめぐり道が開けてくるといった内容のめでたいことわざで有名です。

集という字は面白いでしょ。集まるという文字は木の上に鳥が集まるところから集まるという文字が出来たのですよ。

昨年は業界もあまり良い話を耳にすることは少なかったのですが、それでも私の周りの知り



合いには、活気のあるところが教箇所ありました。これらの人々に共通していえることは、みんな元気で前向きだということです。

似たことわざに「笑門来福」、笑うかどには福来るといふのがありますが、これもまた、明るいところには幸せがあつまるといった内容です。暗いと不平を言うよりも、すすんで明かりをつけましょう！ 今年は明るく前向きに、笑っていこうではありませんか。

副会長・宮後 浩

## 楽しかったぞ！“クリスマス&忘年会”

青年部奮闘・2004年 掉尾を飾る

12月23日(祝日)夕方からOIS青年部主催のクリスマスパーティが開催された。

新青年部役員8名が企画、準備を重ね、当日も準備段階からすでにワイワイと盛り上がっていた。場所は今話題のスポットである西梅田に位置するハートンホテルに、46名もの参加者が集合。ホテルマンによる「テーブルマナー教室」からスタート。その後サンタ姿の司会者が登場し、いよいよおいしいディナー。でも、ゆっくり味わう暇もない程に次々とグループ対向での楽しいゲームで会場はおおいに盛り上がった。

メインは『あなたもパテシエ』ゲーム。様々な与えられた材料での工作デコレーションケーキ作り合戦。全員楽しみつつも真剣そのもの！ さすがはデザイナーの集まり！



司会の野口・藤井君

大先輩も若者も初対面の人も関係なく各グループメンバーみんなが結束し、発想と出来は様ざまながら、どの作品も？素晴らしいかった！ 食べられないケーキ作りの後、本物の大きなホテル特製のクリスマスケーキがカットされおいしくいただけました。

ゲームは三つ行われたが、総合優勝グループ全員には豪華景品が贈られた。

ラストは参加者全員によるプレゼントの交換。あ〜っという間に時間は過ぎてしまったが、皆さんが笑顔いっぱい帰っていただけたのが何より！と青年部役員一同、胸をなでおろした。

以下は参加者からの嬉しい一言コメント。  
◎「あなたもパテシエ」は、ほかではないゲーム。とてもこのクリスマスパーティーで楽しかったです。Merry Christmas!!  
◎楽しく、おいしくディナーをいただきました。ケーキ作りゲームでは、皆で力をあわせて素晴らしい作品を作ることができました。参加してとてもよかったです。(大阪モード・山本)◎素敵なクリスマスパーティー 呼ん

でいただきありがとうございます。とても楽しく過ごせました。とても楽しく過ごせました。(デジタルテクノ・安田)◎本当に楽しい思い出になりました。このようなパーティーや企画をどんどん実施していただけたとうれしく思います。(大阪モード・古志根)◎今日は本当に楽しい時を過ごすことができました。初対面の人が多かったのですが、面白い企画で盛り上がることができ、感謝しています。

料理もおいしかったし、テーブルマナー教室も役に立ちました。(大阪モード・ハケ代)◎OISの催しに初めて参加したのですが、大・大・大満足です。お腹いっぱい食べられたしおいしかったし、楽しかった！ありがとうございます。(デジタルテクノ・中村)◎楽しかった。2000円以上の得もしたし、来てよかったよ！ごはんもお腹一杯になったし、満足な一日でした。ありがとうございます。(デジタルテクノ・南口)◎お料理もケーキもおいしかったあ！！クリスマスパーティーなんてめったにしないのでとても楽しかった。(デジタルテクノ・本田)◎ゲームも楽しかったし、プレゼント交換も、すごく豪華なものが当たってよかった。また参加したいです。(デジタルテクノ・松葉)◎クリスマスなもので、メッチャ楽しく過ごせてよかったあ〜。食事もおいしくて今年のクリスマスは幸せです。また来たいです。(デジタルテクノ・神谷)◎たくさんおいしいものを食べてとても満足でした。また次の機会にも参加したいなあと思います。ありがとうございます。(デジタルテクノ・崎)◎2000円でこんなに楽しめて、食



青年部の面々と、植田顧問(右端)・宮後副会長(中央)

られて、とてもよかったです。いい思い出になりました。ありがとうございます。(デジタルテクノ・田中)※ここからはちょっと大人のコメント◎インテリア設計士協会は不滅です。(加藤力)◎このような楽しいパーティーは生まれて初めてです(加藤信喜)◎チョー楽しい時間を過ごせました。ありがとうございます。(コラム・本田憲)◎明るい年が迎えられますように！！(足田友一)◎ケーキ作りゲーム・・・本当に燃えました！楽しかった〜！(田原妙子)◎さすが想像力・結集力のある協会の人たちだと感心いたしました。若・中堅・老(失礼)の皆さまが力を合わせ、ますますのご活躍を祈念申し上げます。(真東美也子) (文：森一芽/写真：奥田)



「あなたもパテシエ」優勝グループ



# 『和風講座』

# 小春日和に“和の心”を満喫



「加賀屋新田会所跡(加賀屋緑地)」案内  
 大阪市住之江区南加賀屋4-8 Tel. 06-6682-8151  
 開園時間=10:00~16:30  
 休園日=月曜日(休日の場合は翌日)  
 年末年始12月28日~1月4日  
 入園料=無料(鳳鳴亭)の使用は有料・要予約  
 アクセス=地下鉄四つ橋線「住之江公園」または  
 南海本線「住之江」下車、徒歩15分

久しぶりに『和風講座』が開催された。趣向は「和の心を味わいましょう」「庭を眺めながらお茶会しましょう」。

11月21日、穏やかに晴れた秋らしい一日。大阪住之江区大和川のほとり「加賀屋新田会所跡(加賀屋緑地)」の茶室を借り切ったの見学、茶会、講座には20人の参加があった。ゆったり流れる時間の中、古雅の趣漂う庭園、懸崖菊が香り、みごとに修復された建物。実に贅沢なシチュエーションであった。(写真①)

■午後1時。三々五々やってくる参加者たちは築山林泉式庭園や書院、茶室「鳳鳴亭」、近所の高崎神社(写真②)などを思い思いに見学した。

■午後2時。いよいよOIS初の茶会が八畳茶室広間「鳳鳴亭」で始まった。床の間は賛助会員「からかみ屋」の阿部さんによって額と生け花が飾り付けられ(写真③)、着物姿もあでやかな南野常任理事がお茶を運び、その後にはちょっとごちない着物の新人女性たちが続く。抹茶は宇治、お菓子は堺の銘菓「ニッキ餅」。栢原さん持参の美しい油滴天目茶碗が披露され、皆一同に寛いだ雰囲気であった。(写真④)

■午後3時。講座開始。加賀屋新田会所跡修復工事担当の株式会社金剛組から山本、中山両氏において願った。

まず、山本氏からは文化財指定に関する歴史的な話(ちなみに平成13年大阪市有形重要文化財に指定されている)。中山氏からは文化財修復の難しさや苦労、裏話などを語ってもらう(写真⑤)。そして、本講座の中心的人物、高木常任理事の講義がスタート。江戸中期大阪における新田開発と250年前に加賀屋甚兵衛が開いたこの地がその後文人との交流サロンとして賑わい、この深三畳台目の茶室(写真⑥)が、千利休の流れを意識して作られているのではないかと、資料を見せながらの熱いトークが続いたが、終了時間が来てしまった。午後4時半、皆満足の面持ちで散会した。次回の『和風講座』も期待したい。

さて、若い参加者はどんな感想をもったのか聞いてみた。★いつも時計を気にしながら生活しているが、庭を眺めながらお茶を飲んだり、風景や雰囲気を楽しむという時間の過ごし方があったんだと気付かせてもらったのは、とてもよかった。初めて飲んだお茶もおいしかった。★現代のカフェと茶室での楽しみ方ほどこが似ていると思った。お茶とお菓子を楽しみながら会話を楽しむ。私も時々庭でお茶会らしいことをしている。★三畳台目は狭くて、暗くて不思議な空間だった。あんなところでお茶を点てて飲みたい。すごくゆっくりできた。(写真⑦)★着物を着るのは成人式以来だった。苦しかったけれどうれしかった。初めて見る人が多くてお茶を運ぶのは大変緊張した——といろいろな感想を話してくれた。当日のお手伝いご苦労様。

### 講座開催の協力者

加賀屋緑地管理：籠谷氏  
 天王寺動物公園園事務所：西氏  
 住之江区役所：三好氏  
 株式会社金剛組：山本氏・中山氏  
 OIS賛助会員：“からかみ屋”阿部氏  
 〃理事：高木・千田・田原・南野・柴田

文：柴田保子

写真：千田俊治・北藤士朗



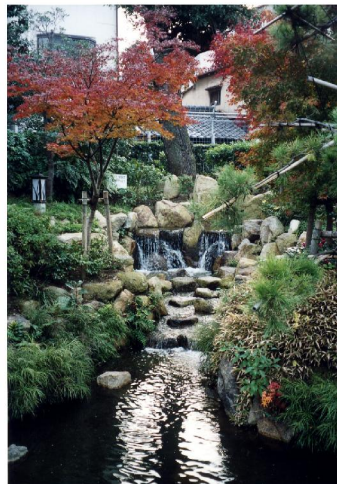
## うんちく噺 その1

江戸時代中期、大和川の付け替え後、幕府は盛んに民間資本(町人の手と財力)を利用して大和川・木津川を中心に新田開発を推奨した。今で言う『民活』である。

加賀屋甚兵衛が建てた新田会所屋敷跡は大阪での新田開発に関する唯一ともいえる遺構である。

新田会所とは、農地である新田を経営するための拠点であり、また市中に住む商人たちの別荘で庭や茶室が設けられ、文人との交流など盛んに行われたサロンでもあった。大阪市では加賀屋新田(住之江区)の他に市岡新田(港区)、春日出新田(此花区)、津守新田(西成区)などがあったが、今日まで残っているのは、市内では加賀屋新田のみ。東大阪市の鴻池新田会所、横浜市の三溪園には春日出新田会所遺構「臨春閣」(重要文化財)が現存している。

これからは貴重な歴史の語り部として、今日我われに伝統文化を伝えてくれている。



## うんちく噺 その2

加賀屋緑地内の池には、たくさんの鯉が放たれている。ある日、岩に大きな白いサギがいた。周辺を住宅に囲まれたこの土地に、緑と水を求めてやってきたとあわれに思っていたのだが、実は鯉をエサにしようと狙っていた。食べるには大きすぎる鯉を突付くだけ突付いて諦めたようだ。鯉こそ迷惑、エラなどに傷を負い、やがて傷口から病気になるという。他の魚にもうつるし・・・好いことなし。とは管理人・籠谷氏の弁。

この池は水質浄化のために何分かに毎に水を循環させている。石組みの間から突然水が滝になってほとぼり出るのをご覧になった方もおいでだろう。浄化槽も設置して気を配っているのだ。

ところで風流な姿と見違えたのはサギだけに詐欺師だったとは。

おあとがよろしいようで・・・。



雨と雨に挟まれながらも奇跡的に天候に恵まれた11月13・14の土日、KIS京都府インテリア設計士協会青年部主催の一泊見学バスツアーに参加したのはKIS=14人、OIS=7人。目的は「イサム・ノグチ庭園美術館」「ジョージ・ナカシマ」の家具で知られる木製作所、「ベネッセハウス」「地中美術館」と「家プロジェクト」の見学である。

行楽シーズンの土曜日、道路が混雑していたため、四国村の散策は省き直接昼食が待つ屋島へ。いきなり讃岐うどんの出迎えを受けた。

おなかを満たした一行は「イサム・ノグチ庭園美術館」へ。バスが目的地に近づくと、ガイドから聞きたくない言葉が発せられた。「撮影禁止ですから、カメラとカメラ付携帯電話は車内に置いていってください」。

イサム・ノグチに関しては周知と思うので割愛するが、同美術館は、84歳の生涯の内20年余りの間、アトリエと住居を構え制作に励んだ香川県木田郡牟礼町が、未来の芸術家や研究者、広く芸術愛好家のためのインスピレーションの源泉になることを強く望んでいたノグチの遺志を実現したもので、150点余りの彫刻作品や自ら選んで移築した展示蔵や住居イサム家、彫刻庭園など、全体が大きな「地球彫刻」、あるいは環境作品といえるもので、生前の雰囲気そのまま公開されており、見応え十分であった。

木製作所は土曜日で工場が休業のため高松市内のショールーム兼ショップを見学するとどまり、これで一日目の見学を終え宿泊する「讃岐五色台国民宿舎」へと急いだ。国民宿舎は山頂にあり見晴らし抜群。展望風呂から見える島と島の間に沈む太陽は、一日の疲れを癒すに十分な光景であった。夕食は、見学ツアーでもあり、また国民休暇村という条件上、宴会とまではいえないが、料理も豊富で、参加したSSS(本部)事務局長が仕掛けたビンゴゲームが行われるなど、大いに盛り上がった。

二日目は、目的の大きなウエイトを占める直島へ渡るフェリーの時間に合わせ早朝の出発だったが、全員爽やかな顔でスタートできた。

「ベネッセハウス」「地中美術館」ともに安藤忠雄設計による美術館で、我われの見学目的は展示物よりも建物に重点が置かれていたが、いずれも環境を配慮し表面に出ているのはわずが、そのほとんどが地に埋もれており、外観は部分的にしか見る事ができない。ベ特に地中美術館は文字どおり地中に張り巡らされた迷路のようなもので、いま居る場所をつかむことさえ難しい状況、同じ通路を行ったり来たり。すでに見たブースなのかもまだ見ていないのかも分からなくなるほど複雑であった。

両美術館も撮影禁止！ 忠告を受け、カメラ没収一步手前も発生、地中美術館では電源を切っている携帯電話を取り上げられそうになった人や、嘔んでいたガムを吐き出さされた人もあるなど、あまりの厳重さには驚かされた。

ベネッセハウスと地中美術館の合間に訪れた「Art House Project(家プロジェクト)」は、

直島・本村(ほんむら)地区の古い家屋を改修、アーティストが家の空間そのものを作品としたプロジェクトで、「角屋」「南寺」「きんざ」「護王神社」の4件がある。その中で特筆すべきは「南寺」で建築設計は安藤忠雄、室内の作品はJames Turrell。かつて人々の精神の拠り所であった南寺の跡地に同名の建物が新築され、「Backside of Moon(月の裏側)」という作品を展示しているのだが、その作品たるや筆舌では表しがたいものであった。10人ずつ案内され真っ暗闇の室内へ。「前の人の肩に手を乗せゆっくり進んでください。真っ暗でも何も見えませんが、足元には障害物もなくは安全です」というような説明を聞きながら恐る恐る進むとストップがかけられ「目が慣れるとそのうちに見えますから、左側も見ていてください」。見えたただのまだ見えないだのと話しながら待つこと10分ほど、薄ぼんやりとなにやらスクリーンのようなものが見えた。「見えた方向に進んでいただいで結構です」。作品らしき方に手を伸ばしても何にも触れない。差し出した手がシルエットで浮かぶのが精一杯であった。ブラックライト、蛍光塗料、そのあたりの工夫だろうと

思うが、これ以上のレポートは私には無理。目覚めの悪い夢のようなものであった。

ここまで読むと「つまらない見学会だったんだ」という印象を強く与えてしまったが、私個人的には、今まではカメラの記録に頼っていた見学が、今回は脳に記憶させる見学になったこと、バスの中で、KIS橋本副会長が準備してくれたVTRで予習してから見学したので非常に理解しやすかったこと、また、バスという限られた空間の共有、みんなで食事・入浴、八畳間に4~5人の雑魚寝状態、寝食をともにした二日間は、人のつながりを強めるには十分であった。が、青年部主催の今回のツアー、青年部の資格を持つ40歳未満は21人中7人、撮影禁止の美術館よりこちらの方に悔いが残ってしまった。

(奥田忠彦)



南寺外観

## 都住創考「僕の家」②

1975年といえばベトナム戦争が終結し、第一回サミットが開催された年。その年に都住創(都市住宅を自分たちの手で創る会)は発足しました。都住創というのは故・中筋修氏と安原秀氏が関西で初めて試みたコーポラティブハウスのプロジェクトで、第一号の竣工は1977年、都住創松屋町です。1991年までに17棟、東京に2棟、10年休止後3棟が建設されました。我が家は第16号“casa都住創”の最上階にあります。

私が最初に都住創と出会ったのは1980年でした。当時、韮公園南側に建設中の物件を見学に行ったときは驚きでした。今こそ「マンションの自由設計」という言葉が市民権を得ていますが、その実、間取りや仕様の変更程度で、まだまだかなりの規制があります。今から25年前のマンションは同じ箱が上下左右に行儀よく並んでいるに過ぎないものでした。しかし、都住創のテーマは『マンション暮らしを選択しても一戸建て住宅のようなフリープランを可能にする』です。そんな背景の中で都住創の各住人たちはよき時代の隣組感覚の連帯感が生まれ、個性があふれ、人生観そのものが住宅に反映したような遊び心あふれる建物だったのです。そしてその後、私が専門としているオーダー家具、キッチンをドッキングさせればより幅広いフリープランが完成するという考えが一致し、プロジェクトに携わることになりました。

1982年竣工の第6号『都住創中大江』は狭い土地に、入居者は30~35歳で予算も非常に厳しい条件でしたが、夢多い方たちの城を完成させることができたのが、私の都住創デビューとなりました。



地階に降りる階段



木とブロックを組み合わせた家具(正面ドアの右)



階段を正面から



木とブロックを組み合わせた家具(食器棚)



10月の頭頃？ 私の手元に1通の手紙が届きました。OISから『10/24(日)陶芸しませんか？』というお誘いでした。もともと陶芸に興味のあった私は早速友達でOIS会員のなっちゃん(辻井奈津子さん)と連絡を取り、二人で参加することを決めました。

電車がマイカーかということで、二人旅的な気分も味わえるだろうと辻井CARで行くことにしました。何度か迷いながらも集合場所の丹文窯には30分前に無事到着、周辺を少し散策して戻ると、女将さんが「お手本にしたいものがあったら見ながらでもいいよ」と言っていたので、お店の商品の前に、あーだこーだいいながら私たちの陶芸は手本選びから始まりました。目の前に手本となるものを置き、土をもらい、準備万端で座っていると師匠(窯元)に「初参加だったら先に教えてあげよう」と、一番乗りで手を付け出した私たちは戸惑いながらも土いじりを楽しんでいました。

陶芸は2回目だったのですが1回目はロク口を使ったものだったので手ひねりで作るのは初体験でした。私は煮炊き物が入る器を目標に土を重ねました。無言・・・少しするとなっちゃんは目標とする器としては土台が小さいといわれ、新しい土をもらって



陶芸教室に参加して

作り直しました。私はそのまま作業を続け最終段階、器の縁を切る作業に取り掛かったとき、事件は起こりました。

斜めに切れてしまったのです・・・もう一度土を重ねて再チャレンジ、今度はイケタ！！と師匠に報告すると「まあまあやな、は出来上がっているながらも、一からやり直すことにしました。土台も初めより広くとり順調に土を重ね、縁の厚みもまあ納得、やっと出来た！という頃には皆さんは終わってアウトドアパーティーの用意を始めていました。

ここからが楽しみの第二弾。作業場の前の広場に作業台を持ち出し、買ってきて

出来上がっているからエエけど、一つ言うと縁の厚みが一定やと良いんやで」と言われ、初めて厚みが違うことに気がきました。つついこだわりの持っている私にいただいたもの、作ってきていただいたものを広げ、会員の皆さんとお話しながら外で食べる食事は美味でした(奥田さんお手製の”トムバカボン”も最高でした☆)。食事が一段落すると、次はビンゴ大会。自分の好きな数字を25の升目に書いてのビンゴは初めてでした。私の黒豆目は師匠の作った大皿か丹波名産の黒豆、結果大皿は逃したものの黒豆GET!! 一緒にビンゴになるとジャンケンで景品を選ぶ順が決まったり、残った景品は争奪ジャンケンをするなど大盛り上がりでした。少しお酒も入りつつ、日も暮れてきたところでお開き・・・。

電車組みの親子3人を近くの相野駅まで送り、帰り道は少し混んでいましたが何事もなく「なかもず」駅到着。景品の黒豆を手土産にそれぞれの家路につきました。

陶芸初参加だったのですが、皆さんの親切でとても楽しい時間を過ごせました。to陶芸だけでなく、機会あるごとに参加したいと思っています。(葉山生子)

★写真は筆者と辻井さんの作品です。

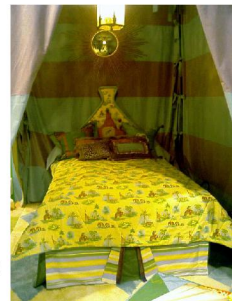
## JAPANTEX見てある記

11月24～27日に東京ビックサイドで国際家具見本市とJAPANTEXが同時開催された。会場は緊張感がみなぎり、各メーカーのブースの説明も熱があった。景気回復への期待なのか展示に活気がある。モダンシンプルも単なるシンプルでなく複雑な質感を持つようになり、色が鮮やかで華やかになってきた。また装飾の重厚感を持つものが出てきた。カーテンは昔の複雑な柄が復刻されたりもしていた。凹凸や穴を開けたり、物が飛び出したりした造形的なものもあり、また日本の色彩がそのまま使われていたりで、全体に少し空気が変わってきたように思われる。

機能性を求めたものとして愛玩ペット対応の壁紙や床材が出品されていた。他にも全体的に見せ方に工夫がみられた。

敷物はギャベやキリムの遊牧民物は今のインテリアに合い親しめるのか人気があった。展示のほかにデザイナーの提案や即売のコーナーもあり、お祭り会場となっていた。

わざわざ東京の端まで行くとと思われるかもしれないが、メーカーのトレンドを手取り早く一堂に見るとができるので便利な展示会であり、何より綺麗なものをたくさん眺められるので、気楽で楽しい展示会だと思っている。(田原 妙子)



双子の姫の寝室で、上はあっさり男っぽい姫、左は女の子らしい甘いコーナーです。

ファブリックコレクションの小技の集大成のような見本帳のようないろいろなテクニックを見ることが出来ます。



## -----モノづくりの学校-----

### 大阪工業技術専門学校OCT

大阪市北区天満1丁目9-27

教育局长：谷山 光 氏/OIS担当：細田 喜則 氏

創立：1895年/創設者・福田右馬太郎氏が私塾「製図夜学校」として創立以後発展とともに校名変更を重ねる。

1964年：大阪工業技術専門学校へ校名変更。翌年、学校法人福田学園設立。教室数44室/学生数約1,200名/教員数約120名

現在までに約2万5000人もの卒業生を送り出し、多数の有資格者を輩出。各分野においての専門性や技術力を問われる現代IT社会に対応できるよう、充実したカリキュラムで学生の育成に努めている。

建築・インテリアの7つの学科と環境土木学科、ロボット・機械学科の9つの学科を持つ。コースにより1～3年、昼・夜間などが設けられている(留年あり)。また、大学、短大卒業生や社会人のスキルアップのための「リカレントクラス」を設けている。

就職対策として全教職員をあげてバックアップ体制を整え活動している。良い就職先を求めリサーチに努め、また即戦力として役立つための指導にも力を入れている。数え切れない卒業生を産業界に送り出し、産業界を支えるポジションで活躍しているそれらの人的ネットワークでの情報収集と、サポート体制で学生の支援に努める。

また、全国のOB会「校友会」のネットワークにより、会員同士の親睦とともに求職・求人の情報提供やフォローなどを行い、卒業生のバックアップもしている。

また、Jリーグ セレッソ大阪のオフィシャルスポンサーでもあり、文化支援、地域交流活性化、社会貢献にも取り組んでいる。同じような専門学校からの見学も多く、また一般の人も自由に見学してもらえるよう、生徒作品の展示室を設けている。中には商品化されるものもあるとのこと。

取材に際し、非常に役立つ幾つかのお話をいただきましたのでご紹介します。

昨今の景気沈滞により就職先の確保は大変難しい課題で、卒業して業界に残るのは80～90%位。学生は建築デザイン事務所への就職希望が多いが、数も少なく徒弟制度的な世界で狭き門である。最短コースだけでなく、一見デザインから遠いようであっても長い目でみてデザイン、技術の力を生かす道があるので、じっくり模索して欲しい。また、昨今は過保護なくらい与えられることが多いので、考える必要がなくなりがちだが、能力を伸ばすのは(1でなく)ゼロから考え自分で決めようとするグループ・・・とのお話で、要領よくしがちな今の時代でも大切なのはモノを考える姿勢なのだと思いました。



す道があるので、じっくり模索して欲しい。また、昨今は過保護なくらい与えられることが多いので、考える必要がなくなりがちだが、能力を伸ばすのは(1でなく)ゼロから考え自分で決めようとするグループ・・・とのお話で、要領よくしがちな今の時代でも大切なのはモノを考える姿勢なのだと思いました。

